

1. 水田はどこにあるの？



苗が植えられた水田。こうした風景は、十勝ではなかなか見られない。

(1) 少なくなった水田

昭和4年(1929)には、十勝の水田は1万^{※1}以上もありました。しかし、寒すぎる気候(特に冷害)、米の値段の低下、国の方針などによって、今ではとても少なくなりました。

平成16年現在、十勝全体でも800^{※2}ほどです。

また、ふつうのごはん用の米(うるち米)は寒さに弱いので、もち用の「もち米」が作られています。

参考：「十勝大百科事典」十勝大百科事典刊行会 編、北海道新聞社、1993

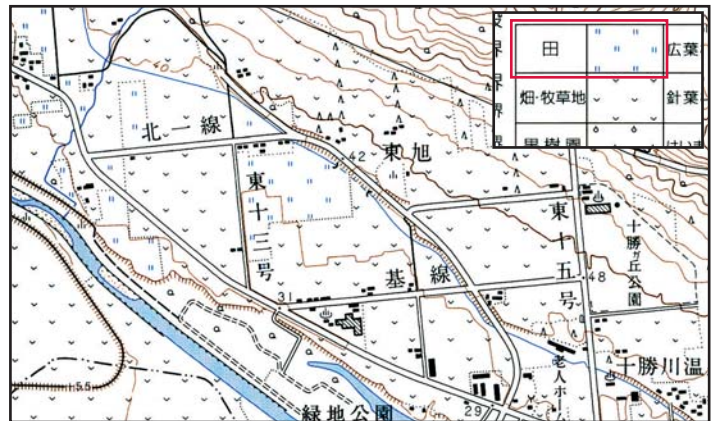
(2) 地図で探す

平成16年に十勝で水田農業をしている人がいるのは、音更町、幕別町、池田町だけです。

その中でどこに水田があるのか、国土地理院が出している地図(地形図)で探してみましょう。地形図には水田の記号がのっています。

ただし、地図を作ったときから時間がたっているので、地図にあっても、今あるとは限りません。

注意!!…水田を見る場合は、先生を通して、農業協同組合(JA)に相談した上で、農家の人に連絡を取り、お願いしてから行くようにしましょう。



地形図は水田が畑かが、わかるようにしてある。右上は地図記号(一部)。(この地図は国土地理院刊行の1/25,000地形図(十勝川温泉)を使用しました)

自分たちで米作り !!

幕別町立途別小学校の例

幕別町の途別小学校では、およそ20年間、毎年田植えをしています。

途別で米作りをする人がいなくなり、何とか小学校で受けつごう、と始まりました。かつての米作農家の方からアドバイスや手助けを受けながら、続けられています。

5月の田植えの時には、かすりの着物にすげかさという昔ながらの衣装で、「田植えおどり」と「雨ごいおどり」をしたあと、苗をひとつひとつ手で植えます。

10月に稲かりをおこない、12月には地域の人を招いてもちつきをおこないます。

途別小の水田での稲かり(上と左下)。右下は、とれた米でもちをついているところ。



川で行われた大きな工事

川にすなごのふだんの書きし

川にすなごの農業

川にすなごの漁業や工業

付録

※1 ヘクタール：面積の単位。100m×100mの正方形が1ヘクタールの広さ。

※2 国土地理院(こくどちりいん)：国土交通省の特別の機関で、測量行政を行う。国土の測量、各種地形図・地勢図の作成などを行う。